

新年明けましておめでとうございます 今年もよろしく願いたします

2011



▲ウサギの特大看板の前で。(洲本厳島神社)
大上幸さん(83)・土居文子さん(95)

今年、淡路市にあります「伊弉諾神宮」にも行きました。大きな鳥居をくぐります。(写真右)



ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

新年の挨拶

社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会

理事長 白水祥文

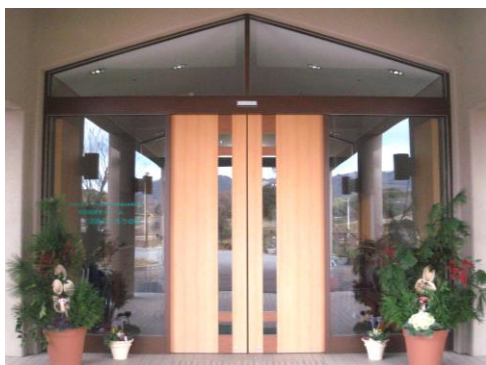
新年、明けましておめでとうございます。

皆様にとって、素晴らしい年でありませう、祈念申し上げます。

また本年は、ふくろうの郷「創立五周年」の年ですね。入所の皆様にとっても職員にとっても、感慨ひとしおです。創立当時の事を振り返りながら、ふくろうの郷開設にかかわった関係各位への、感謝の年とも致しましょう。

既に、5月28日(土)に開所5周年記念事業の開催案が検討されておりま

ふくろう書道講座の佐藤先生は、ずっとご自身のパキンソン病を受け入れながらご指導してくださっています。年末の手術を機にお辞めになる心づもりをされていましたが、初めに励まされ、先ず、元氣な姿をお見せくださる元氣な先生に送りたいです。



今年もがんばります！

す。いろいろとイベントなどを企画して、意義ある記念式典を執行致します。皆様のお知恵をお貸し下さい。

色々とお願いの新年のご挨拶とさせていただきます。今年、の干支は「兔」ですね。油断をして「亀」さんに負けないように気をつけましょう！

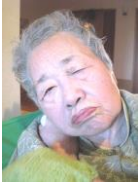
今年も淡路ふくろうの郷の玄関には立派な門松が飾られています。中川原地域交流会の北岡さん、平野さん、沖田さん、宇城さんが山に植わっている自然の材料で作ってくださいました。

元日のお昼には、色とりどりのとてもおいしい手作りのおせち料理を食べました。ソフト食のおせちも用意されたのですが、普通食とほとんど見分けがつかないくらいに素晴らしいものでした。

午後からは初の試み、「ふくろうバー」を開き、カクテルパーティーを楽しみました。次回の開店が待ち遠しいです。



カクテルバー「手話サークルあわじ」栗栖さんのご協力を得て。(写真左端)



水田 和子さん(83)
昭和 2 年 9 月 5 日 生まれ

体調が良い日は、今年はみんなと一緒にいろいろな行事に参加しましょうね。そして、たくさんの入所者や職員と関わり、話しをしましょう。

星海ユニット職員一同より



久保田 福江さん(95)
大正 4 年
3 月 23 日 生まれ
このままのんびり
楽しみながら暮ら
したいです。



志田 喜代松さん(84)
昭和 2 年
1 月 31 日 生まれ
名人漁師でした。
阪神淡路大震災で
家が倒壊。漁師も断
念され、淡路ふくろ
うの郷に。
今年もおいしい
ごはんをたくさん
食べます!

小林 紀雄さん(83)
昭和 2 年 2 月 11 日 生まれ

戦後、昭和 25 年に但馬ろう者クラブの結成に奔走され、豊岡ろうあ協会に発展。県ろう連の副理事長も歴任されました。

いつも楽しく食事をされる小林さん。2月の小林さんの誕生日には、外食を企画しています。楽しみにしててくださいね。

星海ユニット職員一同より



土居 文子さん(95)
大正 4 年 8 月 10 日 生まれ

私は若い頃からスポーツが大好きでした。今は歳を取り、激しいスポーツはできませんので、ウォーキングを楽しみたいです。温泉にも行きたいな。

▲手話でウサギはこう表します。

年末のお正月準備 餅つき・しめ縄作り



しめ縄、完成です。

12月18日に中川原の老人会と地域交流会の皆さんのご協力の下、恒例の餅つきと、しめ縄作りを行ないました。

餅つきは地域の方から寄付していただいた立派な臼を使って、玄関の前で行ないました。入所者も杵を重そうに持ちながらも一生懸命ついでいました。ぜんざいやきなこもち、おろし大根を付けたつきたてのお餅はおいしい! という声を聞き、嬉しく思いました。

しめ縄作りも地域の方から藁(ワラ)等の材料をいただき行いました。普段は自分のお部屋だけで過ごしがちな方も、この日は昔の経



▲中川原地域交流会の井関さんが寄贈してくださった立派な石臼と木の土台を使っての餅つき。

相談員・竹原哲章

験を楽しそうに話しながら参加されていきました。毎年、職員はうまく作るのですが、きず入所者に教えていただいています。
「もちつき」「しめ縄作り」、どちらも入所者の多くが子供の頃から経験を積まれた行事です。昔のお話を誇らしげにされる姿や表情は、とてもキラキラしていました。
今年も地域交流会の皆さん、老人会の皆さん、本当にありがとうございます。

月川ユニット 高橋美代子さん

高橋さんの79回目の
お誕生日のお祝いを兼ね
て、12月15日、淡路市に
あります「パルシェ温泉」に
行きました。

まずはお昼ご飯に
と、うどん屋さんへ行き
ました。うどん屋さん
は高橋さんの好きな
わいらしいパッチワーク
作品や、暖簾が飾られ
ており一緒に見て楽し
みました。

普段は食事制限のた
め味の薄い食事を召し
上がっておられるので、
お出汁のきいたうどん、
おいしかったことと思
います。

買い物へも行き、お正
月用のおかずやお菓子
を選ばれていました。私
も高橋さんと買い物
するのは初めてで、「こん
なものが好きなのだ
な」と初めて知ることが
でき、普段お一人で車

椅子を操作して買
物をされるのは大
変だろ
うなと感
じました。

お互いに「こんな
の
おいしいよ。」
「こっちの
も
おいしいよ。」
と勧め合
い、なんだか
家族と買
物をしてい
るような温
かい気持ち
になりました。

そして、いよいよ目的
の温泉です。ぐくと冷
え込んだ日だったので、
熱いお湯に、お話しし
ながらゆつくり浸かり
ました。温泉で一緒
になった
他の方達
ともおしゃ
べりを楽し
んでおられ
ました。

温泉を上がったから
も「ぼかぼかする」と、靴
下も履かないで、私の方
が厚着をしていて、笑わ
れてしまいました。



くる出てく
る時に。
が、ど
んどん
うって
たいて
し待
文を
注の
(写
真左)



▲うどん屋さんの前で。

高橋さんは施設にお
られる時も、一緒に外
出した時も、他の入所
者さんへの気配りを忘
れず、「私は大丈夫だか
ら、見てあげて」とおっ
しゃべり下さることも多
く、その分、一緒に過ご
す時間が短くなってい
ま
つてい
ました。
今回、一緒に外出し
てみて、高橋さんの違
った面も発見でき、お風
呂にも一緒に入ること
ができて、お話しもた
くさん
できました。
また一
緒に色
々なと
ころへ
出
たい
です。

生活援助員

：小林清香

「見えない糸」 理事・仲井 正

酒席で交わした友人の
一言、「兵庫県は広い。
県内で聴覚障害者に配
慮の行き届いた老人施設
があるのは淡路だけ。
何故、淡路に？淡路だ
け？」

素朴な疑問に、うん、
鋭いところをつくなあ
と思いつつ、経過を説明
するが、最後には面倒臭
くなつて、「負けへんで！
パート3 兵庫はひとつ！」
を読んで見ては！俺のし
がない話より確実な答え
がここにあると思着せが
ましく言ってピリオドに。
師走の肌寒い季節の出
来事でした。

そう言えば、「淡路島」
は自分にとって感慨深い
ものがある。因縁めいた
ものを感じ、不思議な気
分になつてしまう。

耳が聞こえなくなつた
のは、幼児期に家族で淡
路島旅行中に風邪をこ
じらせたのが発端。その
後の聾学校の徹底した口
話教育に嫌気がさして、
将来を絶望していた矢先、

手話通訳者の存在を初
めて目にしてショックを受
けたり感銘したりしたの
も「国立淡路青年の家」
での全国のろう青年男女
が集う青研だった。

そして、協会と手話通
訳者を増やそうという発
憤のきっかけとなつたの
も、遠路はるばる船を乗
り継いで相談に訪れた淡
路島の女性の悲壮感が
印象強く心に焼きついて
いたからだだった。極め
つけが、「淡路ふくろうの郷」
の土地確保と建設実現
の快挙だ。

自分の人生に符号を
合わせたように出る「淡
路島」に宿命的な謎めい
たものを感じる。大切に
守っていかねければ……と
思
つてや
まない。



お郷ま
とのお
様、う
さ、お
奥ろく
に、お
正月と
お名
お3名
こ達遊
びに
遊た。
(写
真左)

地域を語る

第25回 昔話し

「片山の亀蔵」

明治七八年の頃、松亀寺の十夜念仏の中日に洲本寺町の或坊さんが沢山の御馳走を戴いたので、留守居のものに土産にせんと止めるを聞かずに、夜の一時過ぎに寺を出た。

片山他の藪小地の所へ来たところ、堤の五六間先に二十才位の素晴らしき別嬪が白い縞の着物を着て、微笑しながら立っている。少々気味悪く思いつても、そしらぬ風に見過して行ったところ、一二丁遅れて後からコツコツと下駄の音をさして、ついてくる。振り返り見ると、足音が止み、姿が見えぬので、急いで行くと、又からからことと足音がするが、かまわずに急いだ。

安田橋に来ると足音が止んだ。不思議なことと思いつながら下加茂の坂に

さし掛ると、四五十間先に、片山池の堤で見た別嬪が、夜目にもはつきりと、立姿のまゝで、微笑している。薄気味悪く感じ、よくよく考えると持つていご馳走に、ついて来たど気付いて、戴いた竹の皮包を解いて、道端の松の木根にさアさアお上りと言いつ捨て、何事なく寺町へ帰つたものだった。

翌朝松亀寺へ勤めに行く道筋に、昨夜の竹の皮包の無かったのは、噂の高片山池の亀蔵狸の仕業であつたと、松亀寺住職の実話である。

※地方史の新研究
(淡路中川原村史)より



淡路ふくろうの郷 開所5周年記念のつどい

日頃のご支援への感謝をこめて、記念誌「負けへんでⅣ」の発行準備を進めています。併せて、記念の集いを計画しています。施設と地域福祉の充実・発展の願いを交し合う場にしましょう。

誘い合わせて参加いただけますようご案内します。

日時: 平成23年5月28日(土) 午後1時~
場所: 淡路ふくろうの郷 他
内容: 式典・記念講演・記念パーティー
講師: 高田裕氏(たかたクリニック院長)

在宅ホスピス・往診活動等、地域医療の充実にご活躍されておられるお医者さんです。

おのころの家心の俳句

新年会 仲間と一緒

楽しいな

(岡田幸子作)

年末年始は「おのころの家」が休みだったので、自宅で退屈でした。久しぶりに仲間と会えて嬉しさいっぱい!

地域交流推進事業講座をふくろうの郷で



編物教室の様子

「地域交流推進事業」事務局の近藤さんに中川原公民館を拠点に開かれていた講座を淡路ふくろうの郷でも開けないかとお願いしたところ、快諾を得、「手編教室」、「生花教室」、「茶道教室」をそれぞれ10、11、12月に開催していただきました。

参加した入所者は「お花は昔、習ったことあるねん：」「編み者は得意で、よく編んでいた」等々、会話も弾みました。

地域の受講生の方も戸惑っている入所者に身振りを交えて教えて下さったり、入所者との交流を楽しんでいただきました。

また、手編みの作品は12月の中川原公民館の文化展に展示していただき、入所者も見に行きました。

これからも地域に出かけ、また気軽に訪問していただける「地域に開かれ、地域と共にある施設」とし

て、また入所者の「学び」の場である「ふくろう大学」の講座の充実につなげたいと願っています。

総務主任：辻 愛子



生花教室の様子